

した上で対処していきたいと考えます。処理施設等に

ついては、今の段階ではまだ考えられませんが、

放射能関連

問 宮城県では、福島第1原子力発電所の対応として学校の屋外プールを対象とした放射線量の測定を全35市町村で行う方針を決めた。岩沼には8校の小中学校があるが、プールの放射線量の測定をどのように考えているか。

答 水質検査は行います。プールの使用は約3カ月弱

ですが、その間、3回ほど東北大学にプールの水を持って行き、検査、分析を行っていただきます。きょう(6月15日)が第1回目になります。これは県の事業ですが、県内35市町村が一斉にやることになりました。それを受けながらいろいろなことを考えていきたいと思えます。ただ、岩沼市としてはプールは開設します。

安全性への認識は？

問 放射線の安全性について、国がいろいろなものを示しても信じられない。科学的にもどこまで安全なのかは明らかになっていないと思う。放射線対策に対する認識は。

答 福島第1原子力発電所のあの事態というのは極めて重大なことだと思えます。市としては、毎日、県から資料を頂きますが、健康に影響を及ぼすレベルではないとのことですので、それを受け止めています。

水質検査を増やして

問 放射能汚染を危惧され、保護者の方たちからは今年のプール指導は取りやめてほしいという声もある。3回の水質検査というのは本当に少ないと思う。県に対してもう少し回数を多くするよう求めてはどうか。もし高い数値が出た場合には、プールの使用を取りやめる考えがあるか。

答 プールの使用期間中に測りますので、3回ぐらいが妥当ではないかと思えます。どんどんエスカレート



学校のプール (岩沼小学校)

すると毎日測ることになります。測る機能が非常に少ないわけです。現在、東北大学ではパニック状況だそうなんです。そういうことも含め、この期間中に3回の水質検査を行うことで大体分かるのではないかと思います。

プール使用大丈夫か

問 角田市では屋外での水泳授業の中止を決めた。角田市教育委員会としては、国が屋外活動制限の基準として示している1時間当たり3・8マイクロシーベルトを下回っているが、プールの使用については放射線量の規定がなく、使っても大丈夫と判断できる材料がないということでの中止にしたようである。山元町でも小中学校3校のプールの使用を自粛することになった。近隣のまちでこのような対応をしているので、保護者は不安になるのが当たり前である。どう受け止めるか。

答 岩沼市としてはプールの使用について3段階に考えています。一つ目は、プール水は水道水であり、今のところ水道水として問題はないので、プールに水を入れた段階では問題がないだろうということがいえます。二つ目は、日を追うごとに放射線が蓄積されるのではという不安です。それを払拭するために、プールの水を、底水を5センチ抜いたり、あるいは常時オーバーフローにすることできれいにすることを考えています。三つ目は、県の事業として東北大学でプールの水を検査、

分析します。プールの使用期間中に3回の検査をし、県内一斉に公表するとのことですので、この辺を含めて不安を解消していきたいと思えます。

水道水に心配ないか

問 母なる阿武隈川の上流、福島でヤマメが禁漁という新聞報道があった。私たちは阿武隈川から水道水をとっている。プールの水も同じだが、復旧、復興をしても次代を担う子どもたちがいなくなってしまうのもならない。子どもたちの保護者は危惧していると思う。市としては誠実に対応し、危惧するところを払拭すべきではないか。

答 問題があるような数値の出る可能性があるとするれば、次の段階でしっかりとした対応をしていかなければならないと思えます。今の時点では安全だということ。

集団移転関連

問 甚大な災害を受けた6集落の中には、これまでの

所には住めない、集団移転をしたいと考えているところがある。これまでのところ集団移転の考え方は、国